



### 学生の頃から温めていた 強い信念

「産業の乏しさから基地経済へ依存するのが悔しくて、県経済が自立できる新しい産業を興したかった。その思いが原動力でしたね」と柔らかな物腰で語る奥さん。一途な思いをしとやかな雰囲気包みます。子供時代は仕立ての服を着るほどのお嬢様でしたが、小三で父が、中学では母が他界することに。しかし、逆境に負けることなく琉球大学へ進学し、そして念願の



台湾留学時代の学友たちと(左から二人目)

## アジアとの共通点を生かせば 沖縄はもっと大きくなれる

その年、最も活躍した働く女性を表彰する「ウーマン・オブ・ザ・イヤー二〇〇六」に選出された、薬品会社レキオファーマ代表取締役社長の奥キヌ子さん。「ジャパン・ベンチャー・アワード二〇〇四」の受賞に次ぐ快挙となりました。手術をせず、一度の投与だけで内痔核を治療する新薬「ジオン注」を昨年三月に販売し、全国から脚光を浴びています。

### 台湾留学へ。

日本から離れることで、「ウチナーンチュとして、日本人として、文化や教養が足りないことに気がついたので」。いつか広い世界で活躍することを夢見つつ、復学し一層勉学に励みました。



新薬開発の苦労と喜びを語る奥社長

### 中国原産の新薬との 運命的な出会い

卒業後は、沖縄で東南アジアの植物を輸入する業務を開始し、流通コストをカバーできる「付加価値の高い商品」を探

し続けます。そして約十七年前に出会ったのが、先輩が中国から持ち帰った「ジオン注」のオリジンでした。日本では手術が主流だった痔の治療が注射でできると聞き、特に悩む友人と北京の発明者のもとへ。半ば強引に治療を試してもらい、その効果を目の当たりにします。

「長時間座ることもできなかった友人が、入院もせずに旅程を普通にこなせるほど良くなったんです」。薬効に対する驚きは、「これこそが探し続けていた商品だ!」という確信に変わりました。

※ジオン注は共同開発された新薬。  
※オリジン開発の元になったもの。

### 琉球の先人より 受け継ぐ「気概」

日本での新薬開発は莫大な資金と時間が必要です。「この業界に無知だったから飛び込めた」と奥さん。オリジンの沈殿を改善するため、畑違いの膨大なデータ収集や検証などの薬品研究に十七年間に



ウーマン・オブ・ザ・イヤー2006の表彰状

没頭し続けました。課題を二つひとつ解決し、大手薬品メーカーとのタイアップや著名な医師達の助言にも恵まれて、二〇〇四年七月、「ジオン注」が厚生労働省より承認を受けます。翌三月の販売後は早くも全国から反響が寄せられています。

成功の秘訣は、「夢を決してあきらめないこと。未知の分野でも仕事は仕事で教えてくれる」と貴重な経験から得た答えが返ってきました。

「異国文化に寛容だった琉球の先人を見習い、沖縄の新しい未来を切り拓きたい」。国境を軽やかに超えて広い世界を見つめる瞳には、静かに燃える闘志がありました。



レキオファーマ株式会社代表取締役社長

### 奥 キヌ子さん

1946年、糸満市出身。'70年、琉球大学農家政工学科(当時)卒業。'70~'75年、貿易業を営む。'91年、薬品会社「株式会社 中薬研」を設立し、専務取締役就任。'94年、社長に就任。2000年、社名を「レキオファーマ株式会社」に変更。'04年7月、同社と三菱ウェルファーマが共同開発した内痔核硬化療法剤が厚生労働省の承認を受け、'05年3月より販売を開始。

